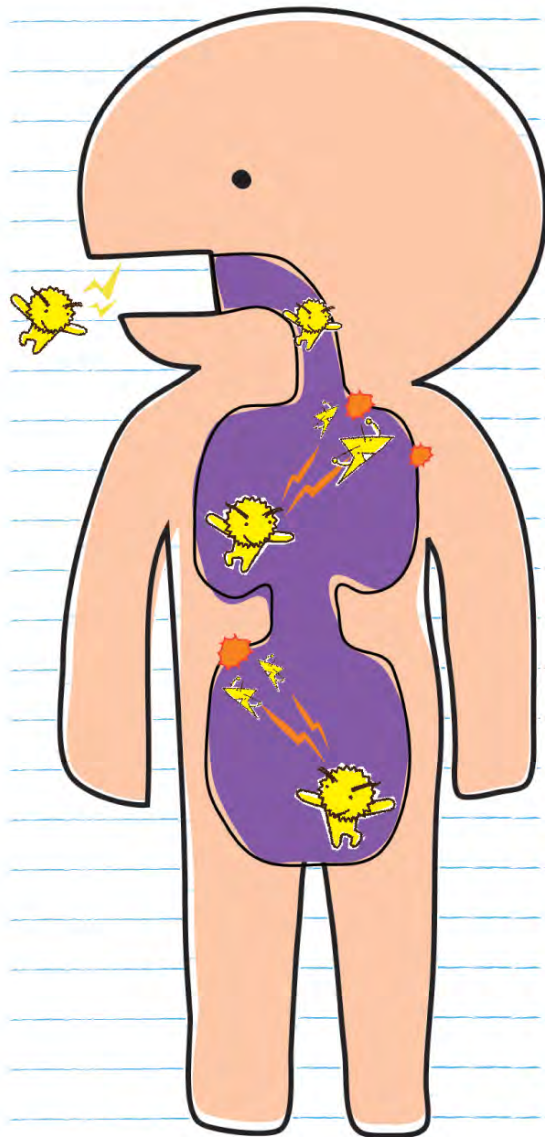


Q. 内部被ばくってなに？

食べ物などに含まれた放射性物質が体内に入り、被ばくすることを「内部被ばく」と言います。



食べ物からの内部被ばくを防ぐため、食品には放射性物質の基準値があり、検査に合格した物だけをお店に並べています。

もし内部被ばくしても、放射性セシウムはそのまま体にとどまるのではなく、「代謝」によって汗や排泄物と一緒に体の外へでていきます。

Q. 食べ物の基準ってあるの？



日本の放射性セシウムの基準値

食品群	基準値 (単位：ベクレル/kg)
一般食品	100
乳児用食品	50
牛乳	50
飲料水	10

内部被ばく線量の上限を年間1ミリシーベルト



これをもとに放射性セシウムの基準値を設定

アメリカ

食品群	基準値 (単位：ベクレル/kg)
一般食品	1,200
乳児用食品	
牛乳	
飲料水	

EU

食品群	基準値 (単位：ベクレル/kg)
一般食品	1,250
乳児用食品	400
牛乳	1,000
飲料水	1,000

アメリカやEUと比較してみても日本の基準はとても厳しく設定されています。

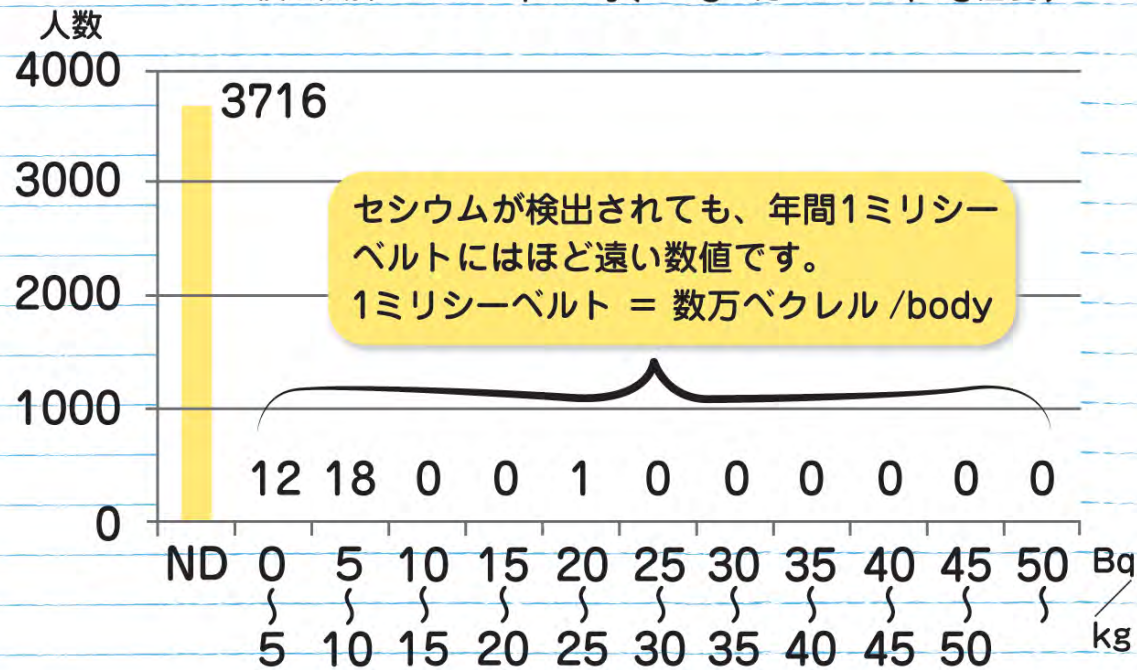
相馬市の内部被ばく検査状況について

平成26年度の検査状況(大人)

WBC 受診者数 3,747人

受診者のうち未検出(ND) 3,716人

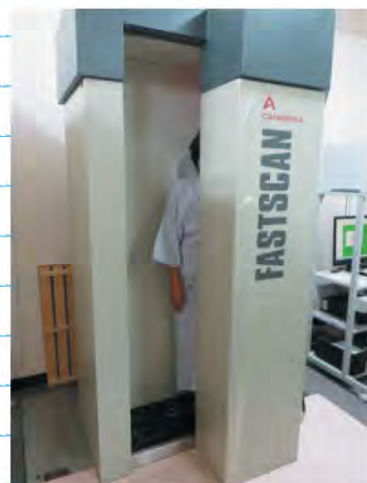
※検出限界⇒250 Bq/body(60kgの方で、4Bq/kg程度)



内部被ばく検査方法

内部被ばく検査は、ホールボディカウンターという機器をつかい測定します。相馬市では、相馬中央病院、公立相馬総合病院で検査を実施しています。

※受付：相馬市保健センター

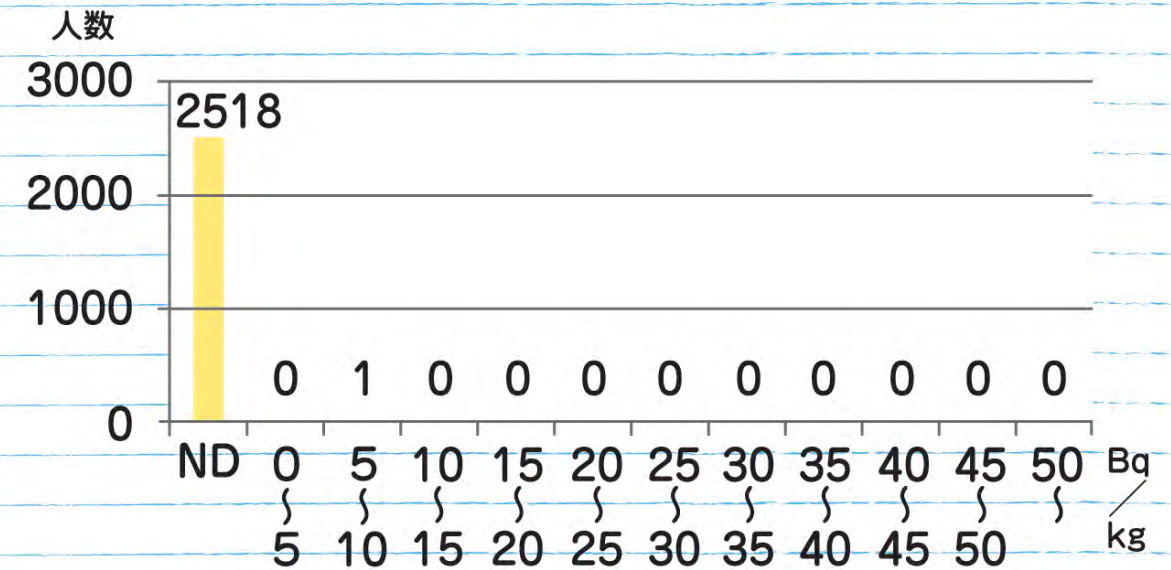


平成26年度の検査状況(子ども)

WBC 受診者数 2,519人

受診者のうち未検出(ND) 2,518人

※検出限界⇒250 Bq/body(60kgの方で、4Bq/kg程度)



ほとんどの子どもは、不検出となっています。

セシウム134、137の生物学的半減期は年齢が若いほど体内のセシウムが半減する時間が早くなります。

生物学的半減期とは、代謝や排泄により体内の放射性物質が半分になる時間のことを言います。

排泄などで体内の放射性物質が半分になる時間が大人は約100日、小学生で約30日くらいで半分になります。

Q. 相馬市の
水道水は
安全なの？

相馬の水は安全です

事故直後を除き、ゲルマニウム検出器ですらセシウムが検出されたことはありません。

※週3回ゲルマニウム検出器により測定

検出限界値 1Bq/kg
(飲料水基準値 10Bq/kg)



水道水とミネラルウォーターは検査する項目が違います。

水道水	検査項目51項目
ミネラルウォーター(原水)	検査項目18項目

水道水の方がクリアしなければ
ならない基準項目が多い

ホールボディカウンターの検査結果でも、水道水を使用している方とミネラルウォーターを使用している方で、内部被ばくに違いはみられませんでした。

Q. 相馬市の
水はどうして
安全なの？

水道水は泥やゴミを沈殿させ、そして消毒することで作られます。セシウムは泥と強く結びつくため、上澄みの水(水道水)に放射性物質はほとんど含まれません。



フロック形成池で大きく水をかき混ぜてフロック(凝集剤がゴミをあつめたもの)を作ります。



沈殿池で、フロックを沈め、きれいな水を取り出します。



沈殿された土は、乾燥した後、保管されます。

セシウムは、土と強く結びつく性質があり、乾燥後の土からやや高い放射能を検出することもあります。この泥の汚染が高いということは、その分しっかり上水道から汚染を分離しているということになります。

相馬市の食品検査状況について

年度別食品放射能検査結果

	測定件数	基準値超	基準値超割合
平成24年度	3,078	99	約 3.2%
平成25年度	2,074	33	約 1.6%
平成26年度	1,243	11	約 0.9%
平成27年度 (平成28年度2月末現在)	845	5	約 0.6%

※出荷制限品目等を除く

- ◆基準値を超えている食品の内訳は、ほとんどが出荷制限等のかかっている山菜・きのこ類(山で採れるもの)です。
- ◆相馬市産の米は、全量全袋検査を実施し、基準値(100Bq/kg)を超えたものは、ありませんでした。
- ◆大根やニンジン等、畑で採れる野菜は、そのほとんどが基準値以下という結果が出ています。



非破壊式測定器(市役所)

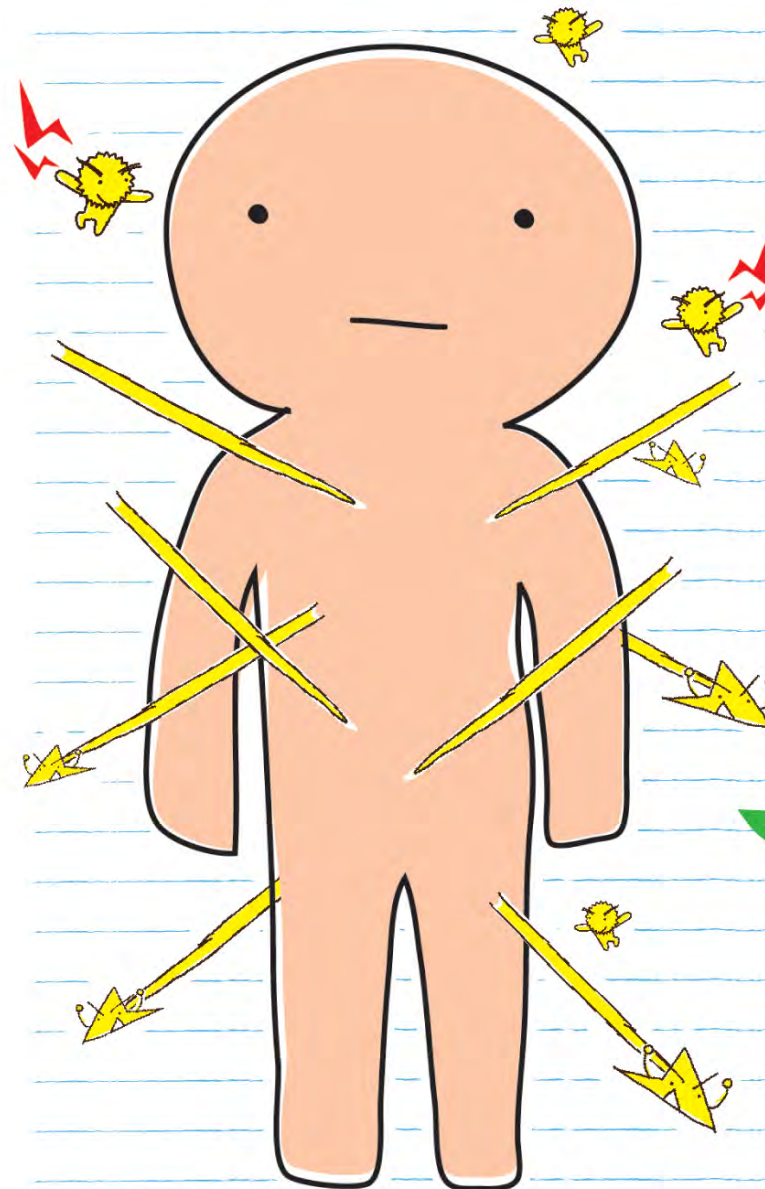


米の全量全袋検査

※食品の測定は、市役所、各地区公民館等の施設で実施しています。

Q. 外部被ばくってなに??

体の外にある放射性物質から、放射線を受けることを「外部被ばく」と言います。



原発事故の時に飛んできた放射性物質は、雨と一緒に地面に落ちて土や泥にくっついたので、今は空気中にはほとんどありません。